

家庭教育支援チーム進捗状況について（令和3年4月1日現在）

1 目的

不登校児童生徒とその保護者を対象とし、民生・児童委員が学校と緊密に連携・協力しながら学校とは異なる立場による日常的な支援活動を行うことで、保護者の子育てに対する不安感や負担感を解消するとともに、家庭や子どもたちの孤立化を防ぐことを目的とする。

2 令和2年度取組結果

各学校・地域により、学校と民生・児童委員との関係性の強弱に差異があることから、各学校・地域を個別に訪問したうえで、関係性の構築・強化、仕組みの理解促進を中心とした取り組みを実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、緊急事態宣言が発令されていた（令和2年4月～5月・令和3年1月～3月）ことを受け、学校訪問を中断していた期間があったため、拡充スケジュールに遅れが生じている。

○民生・児童委員への協力依頼

- ▶ 7月期会長協議会、各地区民生・児童委員協議会
- ▶ 8月 富士見地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 10月 大谷口地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 11月 高島平地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 3月期会長協議会、各地区民生・児童委員協議会

○各学校の状況把握・理解促進（14小学校・9中学校で実施）

- ▶ 仲 町地区：板橋第六小学校・弥生小学校・板橋第二中学校
- ▶ 富士見地区：板橋第八小学校
- ▶ 大谷口地区：上板橋第二小学校・大谷口小学校・向原小学校・
上板橋第二中学校
- ▶ 常盤台地区：上板橋第三中学校
- ▶ 清水地区：志村第一小学校・志村第三小学校・志村第一中学校
- ▶ 蓮根舟渡地区：志村第三中学校・志村第五中学校
- ▶ 前 野地区：北前野小学校
- ▶ 桜 川地区：上板橋小学校・桜川小学校・桜川中学校
- ▶ 高島平地区：新河岸小学校・高島第一小学校・高島第五小学校・
高島第一中学校

○顔合わせ会の実施（24 小学校・9 中学校で実施）

- ▶富士見地区：板橋第八小学校
- ▶大谷口地区：上板橋第二小学校・大谷口小学校・向原小学校・
上板橋第二中学校
- ▶常盤台地区：上板橋第四小学校・常盤台小学校・
上板橋第一中学校・上板橋第三中学校
- ▶清水地区：志村第一小学校・志村第三小学校・志村第一中学校
- ▶志村坂上地区：志村小学校・志村第二小学校・志村第四小学校・
志村第二中学校・志村第四中学校
- ▶中台地区：志村第五小学校・中台小学校・緑小学校・若木小学校
- ▶蓮根舟渡地区：志村第六小学校・舟渡小学校・蓮根小学校・蓮根第二小学校・
志村坂下小学校・志村第三中学校・志村第五中学校
- ▶前野地区：前野小学校・富士見台小学校・北前野小学校
- ▶桜川地区：桜川中学校
- ▶高島平地区：新河岸小学校

○家庭教育支援チーム運営研究会（オンライン）の開催

- ▶新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講義動画を板橋区ホームページ上に掲載し、参集せずとも自身の都合に合わせて視聴できる方法により開催した。

対 象：板橋区内で活動する全ての民生・児童委員

テーマ：子どものいる家庭を訪問するにあたっての心構え

講 師：白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科 教授 森山 千賀子 氏

掲載期間：令和3年3月30日～4月30日

○活動実態の把握（一例）

<ケース①> 見守り支援

- ▶学校が心配な児童の情報を主任児童委員と共有し、主任児童委員による地域での見守りを実施した。

家庭・本人の様子	母親との関係が悪く、ネグレクト気味のため、本人は体重が減少してきている。
支援内容	公園で夜まで遊んでいる様子であったため、公園の見回りや自宅の様子を伺うことを継続的に実施した。
結 果	他区へ引っ越すこととなったため、支援を終了した。

<ケース②> 見守り支援

- ▶学校が心配な児童の情報を主任児童委員と共有し、主任児童委員による地域での見守りを実施した。

家庭・本人の様子	母親の再婚相手との間に子どもが生まれ、気持ちが不安定になったことで学校のアンケートに自殺をほのめかす記入をしていた。
支援内容	たまたま知り合いであったため、顔を合わせるタイミングで声掛けをしたうえで変わった様子がないかを随時確認した。
結 果	声掛けを継続するうちに明るくなったが、引き続き気に掛けながら必要に応じて学校に報告していくこととした。

<ケース③> **関係機関紹介**

- ▶虐待が疑われる家庭について友人より相談を受けた主任児童委員が、学校に相談し情報を共有するとともに、児童相談所虐待対応ダイヤル「189」を紹介した。

家庭・本人の様子	親子の口論が激しく、時には暴力も疑われる様子であった。
支援内容	児童相談所虐待対応ダイヤル「189」を紹介し、必要に応じた通報を依頼した。
結 果	連絡を受けた子ども家庭支援センターが家庭を訪問し、その後口論は聞こえなくなったが、引き続き気に掛けながら必要に応じて学校に報告していくこととした。

<ケース④> **登校後の寄り添い支援**

- ▶学校が心配な生徒の情報を民生・児童委員と共有し、民生・児童委員による登校後の別室での寄り添い支援を実施した。

家庭・本人の様子	生活リズムが不規則なため朝から登校することが困難な様子であり、友人関係をめぐる課題があることから教室に入れず別室登校をしていた。
支援内容	別室において生徒の話を傾聴し、課題の取組を見守り、給食と一緒に食べるなど、寄り添い支援を実施した。
結 果	本人のリズムが定着するまでは話を傾聴し気持ちが和らぐよう寄り添いを継続しつつ、友人が「一緒に登校しよう」と声を掛けてくれ交流も徐々に増えていったこともあり、教室に戻ることができたため、支援を終了した。

<ケース⑤> **お迎え・登校支援**

- ▶学校が心配な児童の情報を民生・児童委員と共有し、家庭の意向を確認したうえで、朝のお迎え・登校支援を実施した。

家庭・本人の様子	ホームヘルパーが家事代行の支援をしており、従前は8時に訪問のうえ声掛けもしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により8時30分～9時の訪問に変わってしまったため、朝の登校が間に合わなくなってしまった。 登校支援があると登校できる可能性があり、朝一で登校すれば学校生活にスムーズに馴染める様子であった。
支援内容	家庭の意向を確認したところ、民生・児童委員による支援を希望していたため、朝のお迎え・登校支援を実施した。
結 果	朝のお迎え・登校支援を継続した結果、登校のリズムが身に付き自力で登校できるようになった。 その後は、通常の下校時刻に下校する姿を見かけるようになったため、支援を終了した。

3 拡充スケジュール（令和3年4月1日現在）

年 度	理解促進	顔合わせ会
令和元年度（平成31年度）	16 小学校・4 中学校	0 小学校・1 中学校
令和2年度	14 小学校・9 中学校	24 小学校・9 中学校
令和3年度（予定）	21 小学校・9 中学校	27 小学校・11 中学校
全 校 数	51 小学校・22 中学校	51 小学校・21 中学校（※）

※西台中学校は、日頃から民生・児童委員との情報共有が活発なため、改めての顔合わせ会は実施せず

4 令和3年度取組予定

○拡充の完了

- ▶計画の最終年度である令和3年度中に、区内全小中学校における状況把握・理解促進及び顔合わせ会を完了させる。（6月～12月）

○アウトリーチの実現

- ▶顔合わせ会実施後、学校と民生・児童委員との連携体制について活動記録を基に確認したうえで、不登校対策への寄与について把握する。（年間）
- ▶円滑な連携体制が確立されていない学校については、問題点を整理しアウトリーチの実現につなげていく。（年間）

○家庭教育支援チームの認知度向上及び理解促進

- ▶家庭教育支援チームの仕組みや活動事例について取りまとめたものを学校や民生・児童委員等に対し周知することで、家庭教育支援チームの認知度向上及び理解促進を図っていく。（5～3月）

○家庭教育支援チーム運営研究会の開催

- ▶実績を検証したうえでテーマ等を決定し、家庭教育支援チームの運営に携わる民生・児童委員を対象とした講習会を開催する。（11月）